

旋回

パラグライダーの旋回では、
キャノピーとパイロットの位置の違い
により、独特の操作を行ないます。
旋回では、この感覚を理解すること
がとても重要です。

ウエイトシフトとブレーク操作

パラグライダーで飛行するとき、パイロットはキャノピーのはるか下方(5m~7m下)で操縦しています。

旋回などの操作を行なえば当然、キャノピーとパイロットには速度差が発生しますので、**「いかにウエイトシフトとブレーク操作によって動きをリンクさせるか」**ということが重要になってきます。

正確な旋回を行なうためには

- バンク一定
- 速度一定
- 滑りナシ

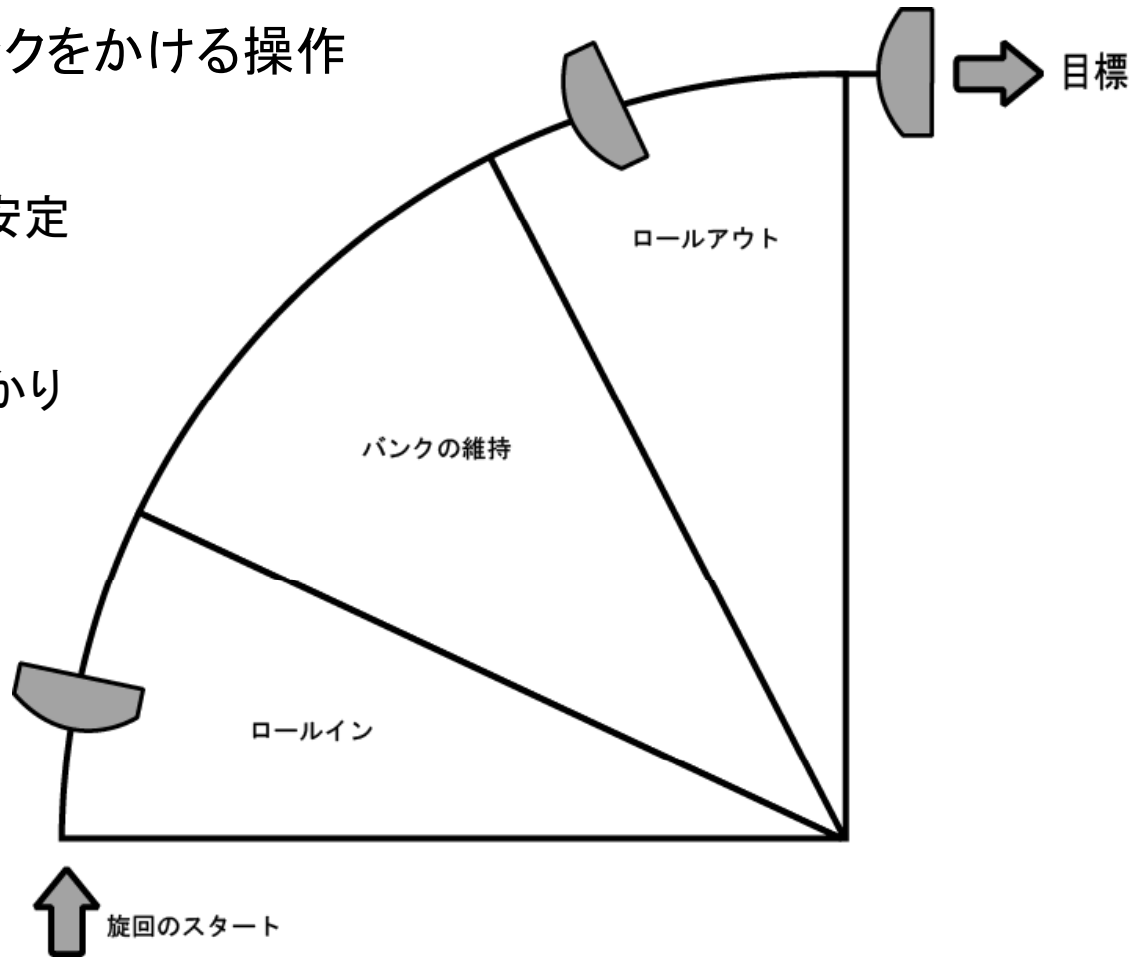
旋回の3原則と言います。

ロールイン

旋回をするためにバンクをかける操作

- パラグライダーは自立安定がとても強い道具。
- =バンクが戻りやすい。
- 体重を旋回方向にしっかり乗せる。
- ブレーク操作。

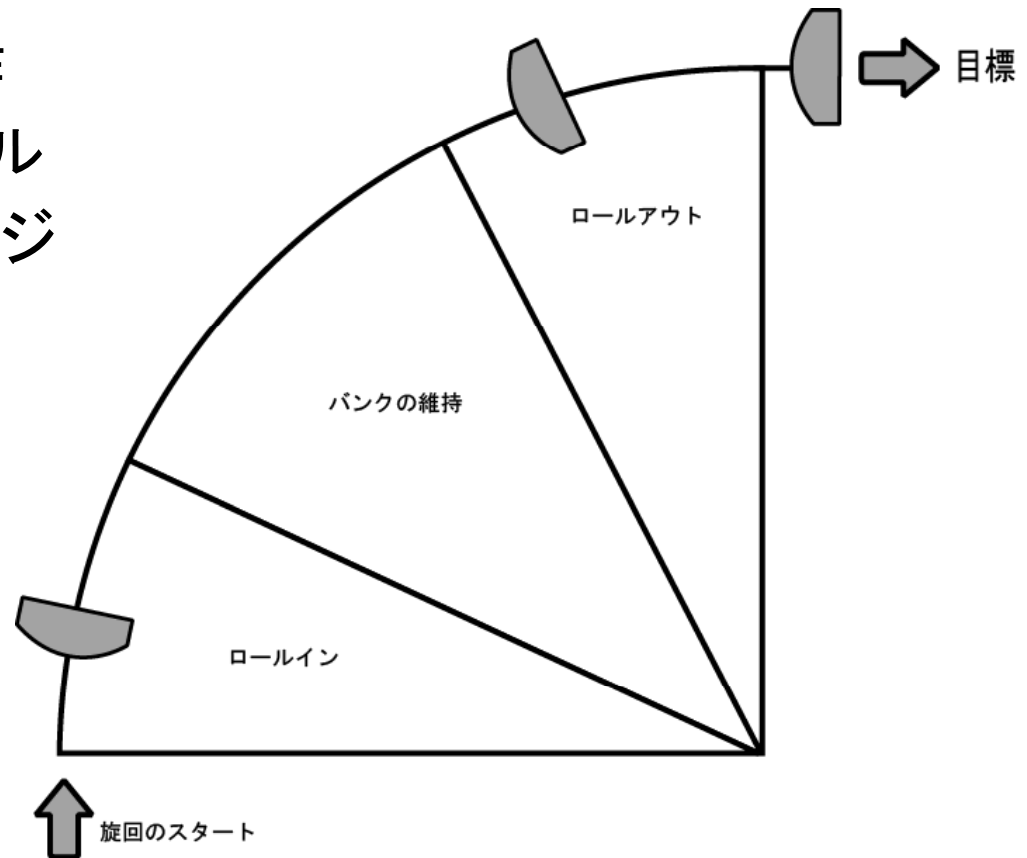
1. 目線(目標設定)
2. ウェイトシフト
3. ブレーク操作
4. バンクの持続



バンクの持続

- 常に速度をつける操作
- 左右の翼のコントロール
- 加速も減速も出来るポジション

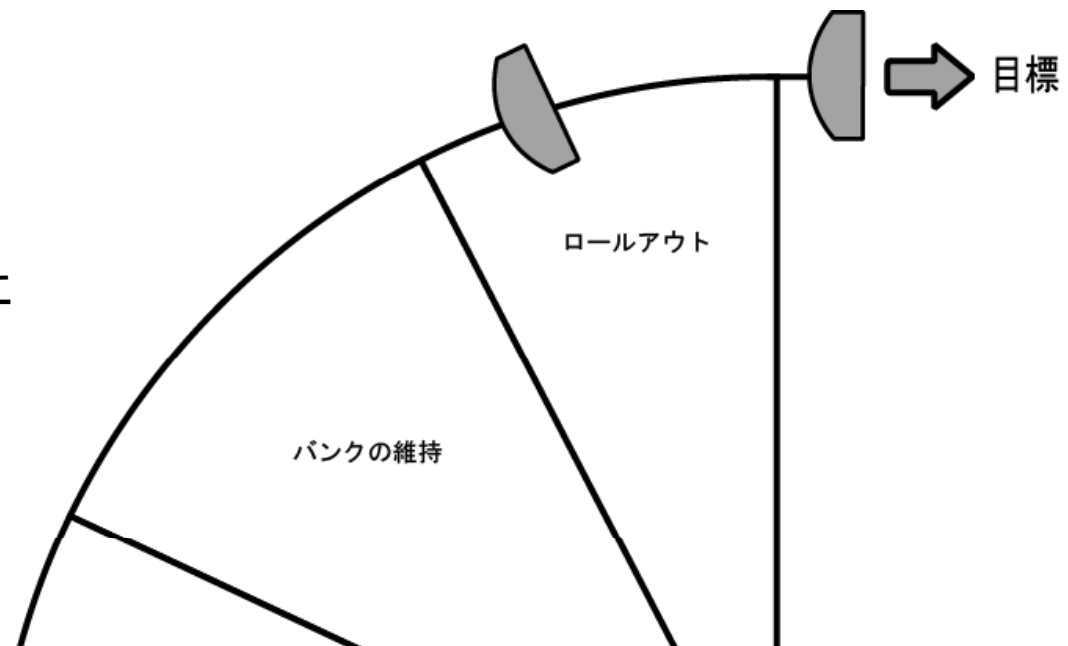
1. 水平線と、キャノピーの傾きを確認
2. 左右のブレークコードで、バンクをコントロール
3. バンクが戻ろうとする力をウエイトシフトで押さえ込む
4. バンクがきつくなりすぎないように、いつでも戻せる位置



ロールアウト

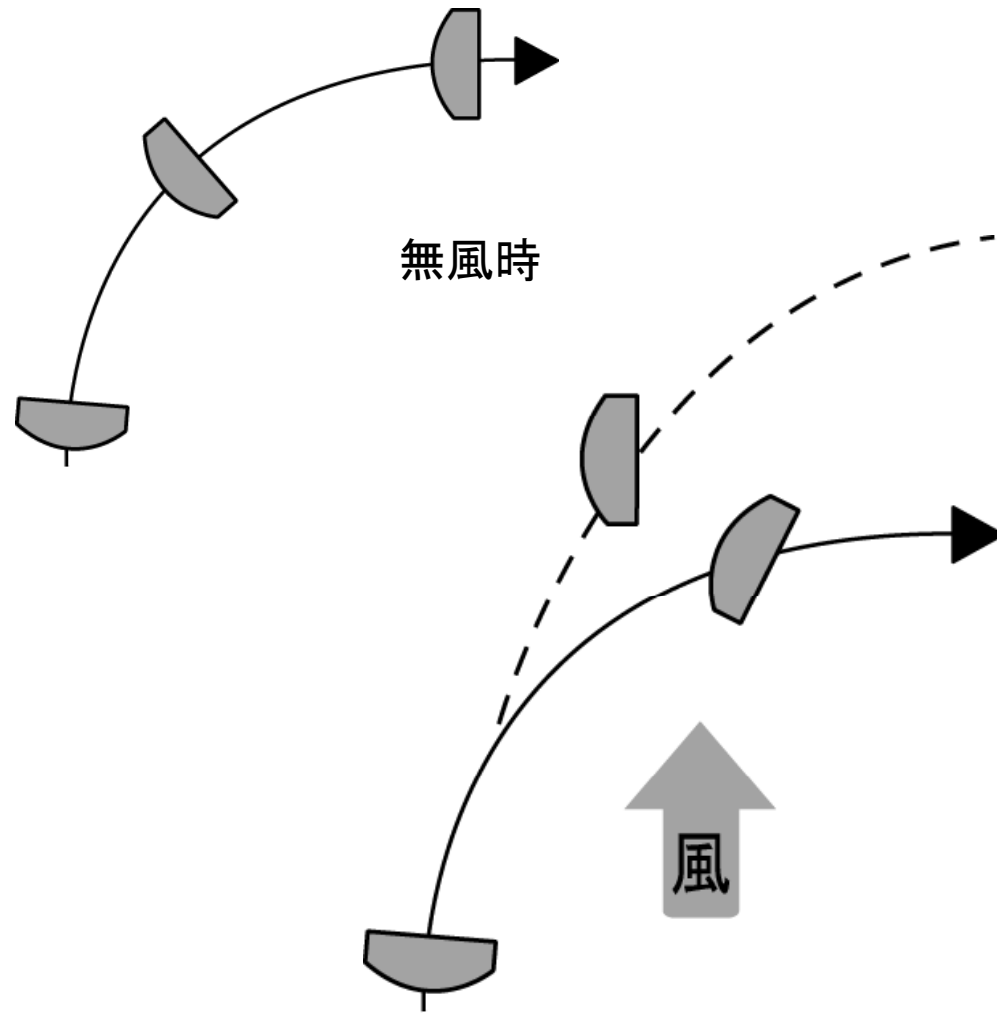
急激に戻ろうとするキャンピーを抑えながら
安定した直線飛行へ

- パラグライダーは自立安定が強い道具
- =すぐにパイロットの真上に戻ろうとする
- エネルギーが残っていれば2次的なロールが発生
- いつまでも左右に揺られてしまう。



1. 目線、ウエイトシフト、ブレークの順に戻していく。
2. 離脱直前から直線飛行までの間、積極的に左右のブレーク操作を繰り返す
3. 2次的ロールの発生を抑える

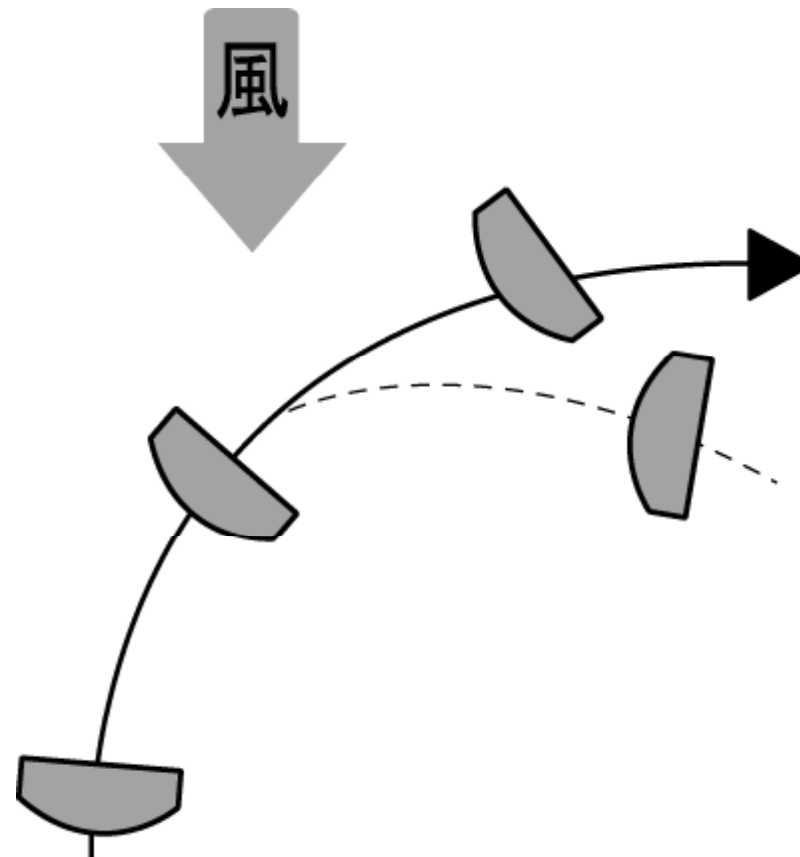
追い風からの旋回



- 追い風からの旋回では、パラグライダーが風下方向に流されてしまうため、機首を希望旋回角以上まわす必要があります。

向かい風からの旋回

- 向かい風では希望する方向まで向く前に旋回を止める必要があります。



旋回による高度ロス

- 通常、旋回をすれば高度ロスします。
- バンクがきつければ、その分大きくロスします。
- 高度を意識したバンク角を意識しなければいけません。